



皆さんの悩み、お聞きます

ケアラーの窓から

Vol.20

もっと支えたい ケアラー支援を 実行する体制へ

Profile

栗山町ケアラー支援推進協議会

はつやま せいじん
会長 初山 清仁 さん

浦臼町出身。小学校教員として道内各地で教壇に立ち、栗山小学校長を務めた経験も持つ。定年退職後、平成21年より8年間にわたり北海道介護福祉学校長として本町の介護教育にも尽力。令和5年6月より町社会福祉協議会長に就任した。



教員時代を振り返ると、「ケアラー」の実態は今のようには表面化はしていませんでしたが、家庭訪問時、風呂に入っていない、ご飯を食べていないなどの家庭もあり、都度、家庭状況の確認や声掛けをしていました。今思うと「ヤングケアラー」が関係することだったかもと考えてしまいます。

核家族化やひとり親世帯が増えている現在、周りに相談ができなくなり、孤立する方が出てしまうことから、ヤングケアラーをはじめ、老老介護の問題も目に見えるように

私がケアラーに思うこと

私はこれまで、町内会や連合町内会での活動を行っており今年度役職を退いたところでしたが、当時の町社会福祉協議会（以下、社協）の前会長よりお誘いがあり、会長職を引き受けることになりました。社協の活動は学ぶことが多く、ケアラー支援を中心にまちづくりに関わりながら活動することで精一杯職務を全うしたいと強く思っています。

町社協の新任会長に就任



※ケアラー支援推進協議会
町内の福祉・教育関係者などで構成され、ケアラーに関する情報交換や計画策定・支援の提案などを行います。

先日行われた第一回ケアラー支援推進協議会では、委員の皆さんが前向きな意見を持っており、さまざまなアイデアや情報のある方もいて、身の引き締まる思いです。今後の話し合いを通じ、支援を実行する体制を築きたいと思っています。

私自身、直接のケアラーの経験はありませんが、以前妻が母親の介護を昼夜問わず通いで行っている姿を見て、とても大変なことであると感じましたし、もっと支えたいと思っています。

なっていました。結果、ケアラー支援が取り組みとなり、介護サービスも増えてきたというのが、現状の流れのように思います。

みんなで支援を行動に

栗山学び隊 No.39

北海道介護福祉学校

×

栗山町青少年育成会

お手本となるお兄さん・お姉さんとして

町育成会主催「初級・上級リーダー研修」に学生4人がボランティアで参加しました。レクリエーションや宿泊体験を行い、小中学生のサポートを行うことが最大のミッション。食事、入浴、就寝なども共にしながら、お手本となるお兄さん・お姉さんとして過ごす2日間でした。異学年同士での声掛けに苦労しながらも、井上悠来さんは「最初

は壁もありましたが逆に頼りにされて嬉しかった」と話します。活動中や就寝前にもハプニングがいくつかあったといいますが、桑嶋大地さんは「4人で知恵を出して解決できました。交流を通じて、協調性、対応力の大切さを学びました」と振り返りました。世代間交流を通じて学んだ2日間。学生や小中学生にとつて貴重な経験となりました。

地域で輝く介護福祉学校と栗山高校に通う皆さんの様子をお届けします



小学4年生（9歳）から介護福祉学校1年生（19歳）までの幅広い参加者44人での集合写真撮影です



（左）少し緊張した様子で始まった初日の活動（右）最終日の活動後には全員と打ち解け、笑顔で記念撮影を

先輩から学んだこと、次は自分たち

成瀬 綾香さん（栗山高校・3年）
上村 笙さん（2年）・田上 陽花さん（2年）

先月号で紹介したコロナ禍明け初の学校祭。在校生をはじめ、多くの保護者や卒業生などが来場し、大成功に終わりました。「企画した学校祭が盛り上がり、嬉しい気持ちでいっぱいです」と話す成瀬さん。全体の企画運営、当日の司会も務めました。「周り助けもあってやり遂げられた。自信になりました」と振り返りました。



左から田上陽花さん、上村笙さん、成瀬綾香さん

ステージで輝く先輩の姿を見た上村さんは「3年生の背中を見て、多くのことを学びました。来年は自分たちが引っ張っていきたい」と力強く話します。来年に向けて、早くも気合十分の2年生たち。今回、学校祭の広報活動を担当した田上さんは「これからも多くの人に栗高を知ってもらう活動を地道に続けたい」と話していました。

学校祭の様子も
発信中です！



@KURIYAMA_HIGH_SCHOOL



全プログラムを終え、全員で記念撮影